

地球温暖化対策〜今、私たちにできること 第1回

地球温暖化、その原因・影響・対策

現在、地球温暖化が大きな問題となっています。地球の温暖化を一人ひとりが自分のことと考え、みんなで温暖化対策に取り組むことが求められています。

地球温暖化の原因は

地球は太陽からのエネルギーで暖められ、暖められた地球からも熱が放射されます。大気に含まれる二酸化炭素などの温室効果ガスは、この熱を吸収し、再び地表に戻しています(再放射)。そのおかげで、地球の平均気温は15度になり、人間をはじめ生物が生きるのに適した環境が保たれています。

このように、温室効果ガスは本来なくてはならないものです。しかし、1750年頃から始まった産業革命以降、人間は石油や石炭などの化石燃料を大量に燃やして使うことで、大量の二酸化炭素を出すようになりました。

昔は、二酸化炭素は植物や海に吸収されることで、地球全体でバランスがとれていました。しかし、人間の排出する二酸化炭素が急激に増加し

たため、近年、大気中の二酸化炭素濃度は増え続けています。

また、二酸化炭素濃度の増加とともに気温もどんどん上がっています。20世紀の100年間に、地球の平均気温は0.6度上がりました。1990年代の10年間は、過去千年の中で最も温暖な10年となり、1998年には観測史上最高気温を記録しました。

将来の気温上昇・海面上昇

今後の人口増加、経済成長、エネルギー使用量、技術の発展などから2100年には、1.1〜6.4度気温が上がります。18〜59センチ海面が上昇すると予測されています。

この数値は、人間の行動、社会のあり方によって、将来の気温や海面の上昇の仕方が大きく異なってきます。私たちの暮らし方を変えていくことで、温暖化を最低限のレベルに防止することもできます。

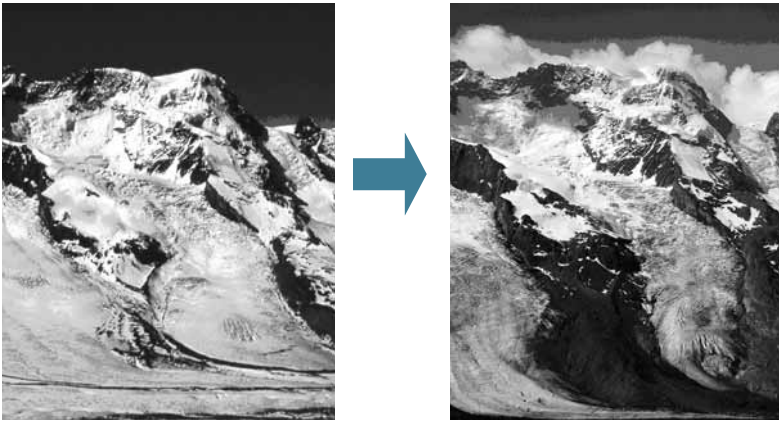
地球温暖化の影響

このまま温暖化が進み、2100年に地球の平均気温が最大6.4度上昇したとき、地球はどうなるのでしょうか？

●海水の熱膨張や氷河が融けて、海面が最大59センチ上昇します。南極の氷が融けるとさらに海面が上昇します。

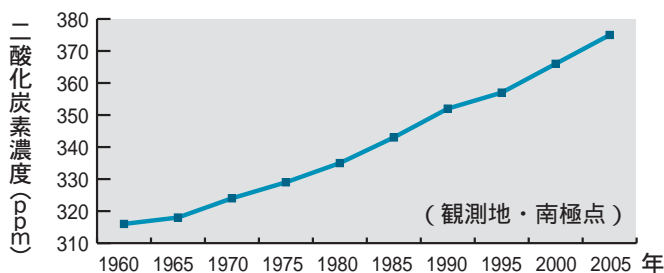
●マラリアなど熱帯性の感染症の発生範囲が広がります。

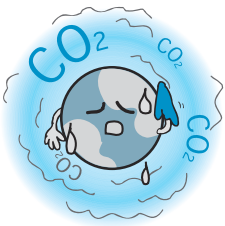
減退する氷河



アルプスの山々から流れ出る氷河(白く見えるのが氷河で、左が1984年、右が2006年の状態)。15年間でスイス全氷河の22%が減少したと報告されています。

【大気中の二酸化炭素濃度の経年変化(概略)】





地球温暖化対策

●現在絶滅の危機にさらされている生物は、ますます追いつめられ、さらに絶滅に近づきます。

●降雨パターンが大きく変わり、内陸部では乾燥化が進みます。

また、熱帯地域では台風ハリケーン、サイクロンといった熱帯性の低気圧が猛威を振るい、洪水や高潮などの被害が多くなります。

●気候の変化に加えて、病虫害の増加で穀物生産が大幅に減少し、世界的に深刻な食糧難を招く恐れがあります。

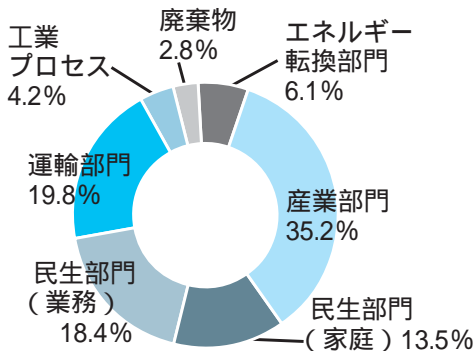
温暖化の対策〈京都議定書

1992年5月に気候変動枠組条約が国連で採択され、温暖化を防止することに同意した世界各国が、具体的な取組について話し合い、協力して進めることを決定しました。

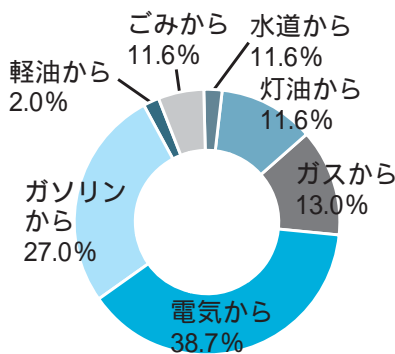
この条約は、これまでの温室効果ガスの多くが先進国から排出されてきたことや、各国の能力などを考慮し、「共通だが差異のある責任」という考え方を根底に捉えています。

この考えの下、1997年、

【日本の部門別二酸化炭素排出量】
…総排出量12億9300万ト



【家庭からの二酸化炭素排出量】
…1世帯当たり年間5.5ト



京都で開催された「地球温暖化防止京都会議」において、2008年〜2012年の間に、温室効果ガスの排出量を、1990年のレベルより全体で5%以上の削減を約束する「京都議定書」が定められました。この中では各国ごとに削減の約束を定め、わが国は

6%削減としています。

我が国の温暖化対策

日本では、京都議定書に基づいて対策を進め、「京都議定書目標達成計画」を策定しました。

この計画では、京都議定書の

6%削減約束を達成するための温室効果ガス別の目標値と、それを実現するための対策と施策が盛り込まれています。

日本における温室効果ガスの排出は、大半が産業活動によるものです。このため、産業界における徹底した省エネやエネルギー転換などが進められ、これからもより積極的な対策が期待されますが、日本経済を根底で支えているのは国民一人ひとりであり、温暖化を防止するためには、私たちのライフス

スタイルを変革することが不可欠となります。生活の中でできる限り資源・エネルギーの無駄遣いをやめ、再利用やリサイクルを進めていくことが地球温暖化を防止する基本です。

音更町の温暖化対策は

町では、町が所有し管理するすべての公共施設や町が行うすべての事務事業を対象とし、平成20年度〜24年度までの5年間に平成18年度に排出した温室効果ガスの5%を削減する「音更町地球温暖化対策実行計画」を策定し、今年度から取り組みを開始します。町の1世帯当たりの温室効果ガス排出量は6.3t(2004年)で、全国平均の5.5t(2005年)を、14.5%上回っており、排出量削減の取り組みが町民一人ひとりに求められています。